

## ヘルプ



このPDFはOSっぽい操作ができるようになっています。

ファイルやメニューを開いた状態(この画面)では、ウィンドウ右上の[X]ボタンをクリックすることで、ファイル一覧画面へ戻ります。

ファイル一覧画面では、アイコンかファイル名、あるいはメニューバーの項目をクリックすると、そのファイルやメニューを開きます。

テキストファイルの内容が複数画面にまたがる場合、画面右下に▼や▲の文字が表示されます。それぞれ、クリックすると、「次の画面」、「前の画面」へ移動します。

# ファイル一覧

ヘルプ      バージョン情報



タイトル



はじめに



自作AC基板



動作風景



YouTube



AMADO



編集後記



おまけ①



おまけ②

タイトル



へにゃぺんて

活動  
報告

2020年  
夏号



## はじめに



はじめての人ははじめまして！

「へにゃぺんて」というサークルで、自作OSなど、低レイヤーまわりの創作活動をしている、大神と申します！

当サークルでは「フルスクラッチ」を基本方針に、これまで「フルスクラッチのx86 64ビットOS自作」や「64ビット機械語バイナリを手書きする」、「ゲームボーイROMバイナリの手書き(そしてシェルスクリプトによる自動化)」などを行ってきました。

技術書典9では、製作期間からも「PDF版のみの頒布」を決めていて、「それなら当サークルとしてはPDFを手書きしよう」、そして「当サークルの芸風として、その上で『OS』を表現してみよう」、ということで、こんなのを作ってみました。



## はじめに



内容はとあるイベントで頒布した「へにゃぺんて活動報告2020年夏号(ROM版はこちら)」と同じで、最近の当サークルの活動をテキストと画像にまとめたものです。(ゲームソフト風に言うと「ゲームボーイ版のPDF移植」です。)

なお、この手作りのPDFは、Linux(Evince)やスマートフォン(Android版Adobe Reader)、Windows(Chrome/Edgeブラウザ上、Adobe Reader)で一応の動作確認はしていますが、どこでも動くことを保証するものではありません。(ダメな場合、この文章さえ読めない恐れがありますが。。)



## 自作AC基板



AVRマイコンで、アーケード基板を自作しています。  
アーケード基板の規格であるJAMMAの信号を出す基板を  
ブレッドボードで試作しています。

次の画像は、試作基板を動作させている写真です。  
写真上半分にあるのがTVで、 (赤で塗りつぶした四角)を  
表示させています。

## 動作風景



これまでの製作物のデモを  
YouTubeチャンネルで公開しました！  
(映像のみ、BGMなど音声無し)

2020年8月現在、以下を公開しています。

- ◆ x86(32ビット)向け自作OS「OS5」デモ
- ◆ UEFI上で動くOSっぽいもの「poiOS」デモ  
その①、その②、その③
- ◆ 64ビットPC向け自作OS「ゆあOS」デモ  
その①、その②
- ◆ 生物学的バイナリ生成システム「daisy-tools」デモ



「AMADO」というゲームボーイ用の自作OSを  
BOOTHで公開しています↓

◆ ゲームボーイOS「AMADO(仮)」v0.01

このPDFの元ネタ(原作?)である  
「へにゃぺんて活動報告2020年夏号」のゲームボーイ版は、  
v0.01から進化して、日本語表示(ひらがな)にも対応したりした  
最新バージョンの「AMADO」を使って製作しました。

ソースコードはこちら↓

[https://github.com/cupnes/sh\\_gbos/](https://github.com/cupnes/sh_gbos/)

本作のゲームボーイ版(原作)を「オンラインとら祭り2020夏」というイベントで8月中旬に無事頒布した後、技術書典9を知りました。

ゲームボーイカセットは頒布できないし、そもそも在庫も無いので、どうしようかと考えていた所、ふと、実行バイナリは機械語レベルで手書きしたことあるけど、技術書のアウトプットであるPDFは手書きしたことが無いなと思い、PDFの手書きを行ってみることにしました。

手書きする中で、実はPDFの中身はほとんどプレーンテキストであることや、手書きなら任意の場所をクリックした際にドキュメント内を好きにジャンプできる事を知りました。  
「クリックに応じた画面遷移」ができれば、インタフェースとしては現状のAMADO(ゲームボーイ用自作OS)と同等の事が行えるため、「PDF上でOSを表現してみよう」、「活動報告のPDF移植を作ってみよう」と思い立ちました。



(なお、このPDFが320x240という解像度であるのは、元ネタにしているOSが当初サポートしていた解像度がそれだからです。)

ゲームボーイ版は表示できる文字数の都合で言葉足らずだったり、試しに掲載してみた写真もなんだかよく分からない感じだったので、それをこのPDF版である程度補完できたのは良かったかなと思います。

何にせよ、今回も新刊を無事(?)出すことができて良かったです。この後はアーケード基板自作に戻ると思うのですが、色々作ったりしたあと、こういったアウトプットに繋げようか、目下悩み中。。

